

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-233666
(P2007-233666A)

(43) 公開日 平成19年9月13日(2007.9.13)

(51) Int. Cl. F I テーマコード (参考)
G06F 13/00 (2006.01) G06F 13/00 G01C

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 7 頁)

<p>(21) 出願番号 特願2006-54253 (P2006-54253) (22) 出願日 平成18年3月1日 (2006.3.1)</p>	<p>(71) 出願人 000004237 日本電気株式会社 東京都港区芝五丁目7番1号 (74) 代理人 100088812 弁理士 ▲柳▼川 信 (72) 発明者 吉野 真一 東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社内</p>
---	---

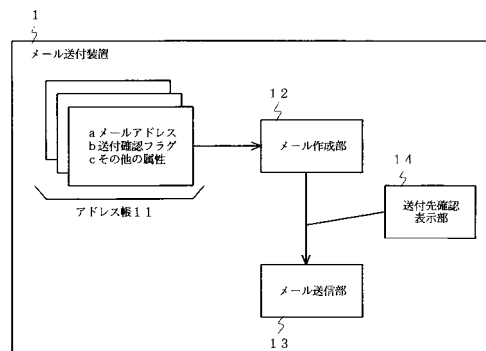
(54) 【発明の名称】 メール送付装置及びそれに用いるメール送付方法並びにそのプログラム

(57) 【要約】

【課題】 複数の送付先を指定して電子メールを送信する場合に送信先を一つ一つを確認することなく、送付先指定の誤操作の可能性を低減可能なメール送付装置を提供する。

【解決手段】 メール送付装置 1 はメール作成部 1 2 で電子メールの作成が完了すると、メール送信部 1 3 にて電子メールの送信処理を行う際に、アドレス帳 1 1 に登録されたアドレスから選択された送付先に、「送付確認フラグ」が含まれている送付先がある場合、送付先確認表示部 1 4 にて「送付確認フラグ」が含まれている送付先のリストを操作者に表示する。送付先確認表示部 1 4 は操作者が送付すべきでない送付先が 1 件以上あると指定した場合、1 件ずつ削除する操作を行う。メール送信部 1 3 は削除すべき送付先がなくなると、その電子メールの送信処理を実行する。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

送付先が登録されたアドレス帳から前記送付先を選択して作成された電子メールを送付するメール送付装置であって、

作成済みの電子メールを送信する際に作成した送付先リスト内に事前に登録した特定の送付先が含まれているかを判定する判定手段と、前記判定手段で前記特定の送付先が含まれていると判定された時に当該特定の送付先を前記送付先リストに含めてよいかを確認する確認手段とを有することを特徴とするメール送付装置。

【請求項 2】

前記電子メールの送付先を前記アドレス帳に予め登録する時にその登録毎に送付先確認フラグを対応付けて登録する手段を含むことを特徴とする請求項 1 記載のメール送付装置。

10

【請求項 3】

前記判定手段は、前記送付先確認フラグが付与された送付先を前記特定の送付先と判定することを特徴とする請求項 2 記載のメール送付装置。

【請求項 4】

前記確認手段で前記特定の送付先を前記送付先リストに含めないことが確認された時に当該特定の送付先を前記送付先リストから削除する手段を含むことを特徴とする請求項 1 から請求項 3 のいずれか記載のメール送付装置。

【請求項 5】

送付先が登録されたアドレス帳から前記送付先を選択して作成された電子メールを送付するメール送付装置に用いるメール送付方法であって、

前記メール送付装置が、作成済みの電子メールを送信する際に作成した送付先リスト内に事前に登録した特定の送付先が含まれているかを判定する判定処理と、前記判定処理で前記特定の送付先が含まれていると判定された時に当該特定の送付先を前記送付先リストに含めてよいかを確認する確認処理とを実行することを特徴とするメール送付方法。

20

【請求項 6】

前記メール送付装置が、前記電子メールの送付先を前記アドレス帳に予め登録する時にその登録毎に送付先確認フラグを対応付けて登録する処理を実行することを特徴とする請求項 5 記載のメール送付方法。

30

【請求項 7】

前記判定処理において、前記送付先確認フラグが付与された送付先を前記特定の送付先と判定することを特徴とする請求項 6 記載のメール送付方法。

【請求項 8】

前記メール送付装置が、前記確認処理で前記特定の送付先を前記送付先リストに含めないことが確認された時に当該特定の送付先を前記送付先リストから削除する処理を実行することを特徴とする請求項 5 から請求項 7 のいずれか記載のメール送付方法。

【請求項 9】

送付先が登録されたアドレス帳から前記送付先を選択して作成された電子メールを送付するメール送付装置に用いるメール送付方法のプログラムであって、

前記メール送付装置のコンピュータに、作成済みの電子メールを送信する際に作成した送付先リスト内に事前に登録した特定の送付先が含まれているかを判定する判定処理と、前記判定処理で前記特定の送付先が含まれていると判定された時に当該特定の送付先を前記送付先リストに含めてよいかを確認する確認処理とを実行させるためのプログラム。

40

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明はメール送付装置及びそれに用いるメール送付方法並びにそのプログラムに関し、特に電子メールを送付する方法に関する。

【背景技術】

50

【0002】

従来、メールソフトウェアにおいては、電子メールの作成の際に、アドレス帳に事前に登録している送付先から簡潔な操作によって複数の送付先を指定して送付することができる。

【0003】

しかしながら、上記のメールソフトウェアでは、その簡潔な操作によって、本来送付すべきでない配布先を送付先に含めてしまい、送信してしまう誤操作が度々起こり、ビジネスの情報保守上の観点や相手の感情上の側面等から問題となる場合がある。

【0004】

この問題を解決する方法としては、電子メールの送信決定後に、電子メールを送信する時刻を遅延させる手段を設け、その遅延時間内に、再度、送信先の確認を可能とする方法が提案されている（例えば、特許文献1参照）。

【特許文献1】特開2003-157216号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

上述した従来のメールソフトウェアでは、電子メールの宛先指定操作で、本来送付すべきでない宛先を誤って指定してしまうことによって誤送信をしてしまうことがある。上記の特許文献1では、電子メールの送信時にその送信を遅延させることで、送信先を確認する時間を設けているが、複数の送信先を指定して送信する際に、その送信先を一つ一つを確認しなければならない。

【0006】

そこで、本発明の目的は上記の問題点を解消し、複数の送付先を指定して電子メールを送信する場合に送信先を一つ一つを確認することなく、送付先指定の誤操作の可能性を低減することができるメール送付装置及びそれに用いるメール送付方法並びにそのプログラムを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明によるメール送付装置は、送付先が登録されたアドレス帳から前記送付先を選択して作成された電子メールを送付するメール送付装置であって、

作成済みの電子メールを送信する際に作成した送付先リスト内に事前に登録した特定の送付先が含まれているかを判定する判定手段と、前記判定手段で前記特定の送付先が含まれていると判定された時に当該特定の送付先を前記送付先リストに含めてよいかを確認する確認手段とを備えている。

【0008】

本発明によるメール送付方法は、送付先が登録されたアドレス帳から前記送付先を選択して作成された電子メールを送付するメール送付装置に用いるメール送付方法であって、

前記メール送付装置が、作成済みの電子メールを送信する際に作成した送付先リスト内に事前に登録した特定の送付先が含まれているかを判定する判定処理と、前記判定処理で前記特定の送付先が含まれていると判定された時に当該特定の送付先を前記送付先リストに含めてよいかを確認する確認処理とを実行している。

【0009】

本発明によるメール送付方法のプログラムは、送付先が登録されたアドレス帳から前記送付先を選択して作成された電子メールを送付するメール送付装置に用いるメール送付方法のプログラムであって、

前記メール送付装置のコンピュータに、作成済みの電子メールを送信する際に作成した送付先リスト内に事前に登録した特定の送付先が含まれているかを判定する判定処理と、前記判定処理で前記特定の送付先が含まれていると判定された時に当該特定の送付先を前記送付先リストに含めてよいかを確認する確認処理とを実行させている。

【0010】

10

20

30

40

50

すなわち、本発明のメール送付装置は、作成済みの電子メールを送信する際の作成した送付先リストに、事前に登録した特定の送付先が含まれている場合に、送付先に含めて良いかを確認する機能を有することを特徴とする。

【0011】

上記のように、本発明のメール送付装置では、電子メールの送付先を予めアドレス帳に登録する際に、その登録毎に「送付先確認フラグ」を対応付けて登録しておき、電子メールを作成する際に、「送付先確認フラグ」をオンにしたアドレスを送付先に含める操作をした場合、送信時に「このアドレスを送付先に含めて良いか」の確認を促すことで、複数の送付先を指定して電子メールを送信する場合に送信先を一つ一つ確認することなく、送付先指定の誤操作で本来送付すべきでない送付先にメールを送信してしまう可能性を低減することが可能となる。

10

【0012】

つまり、本発明のメール送付装置では、予め登録していた「送付確認フラグ」が付いているアドレスを送付先に選択した場合、送信直前に操作者に、この送付先に送信して良いかの確認画面を表示し、削除が必要であればその送付先を削除する機能を設けることによって、送付先指定の誤操作で本来送付すべきでない送付先にメールを送信してしまう可能性を低減することが可能となる。

【発明の効果】

【0013】

本発明は、上記のような構成及び動作とすることで、複数の送付先を指定して電子メールを送信する場合に送信先を一つ一つを確認することなく、送付先指定の誤操作の可能性を低減することができるという効果が得られる。

20

【発明を実施するための最良の形態】

【0014】

次に、本発明の実施例について図面を参照して説明する。図1は本発明の一実施例によるメール送付装置の構成を示すブロック図である。図1において、メール送付装置1はアドレス帳11と、メール作成部12と、送信処理部13と、送付先確認表示部14とから構成されており、アドレス帳11の各レコードには、メールアドレスaと、その他の属性cに加え、それらに対応する送付確認フラグbが保持されている。

【0015】

操作者がメール作成部12を使用して電子メールを作成する際に、アドレス帳11から送付先が選択され、電子メールの作成が完了すると、送付先確認表示部14は送信処理部13によって電子メールの送信を行う直前に、上記の送付確認フラグbが付いている送付先が含まれているかをチェックし、含まれていれば、その送付先リストを表示して「これらの送付先に本当に送付して良いか」を確認するためのメッセージを表示する。

30

【0016】

送付先確認表示部14は、上記のメッセージとともに表示した送付先リストにおいて、送付すべきでないアドレスが指定された場合、そのアドレスを送付先リストから個別に削除する。

【0017】

図2は図1のメール送付装置1におけるアドレス帳11の登録処理を示すフローチャートであり、図3は図1のメール送付装置1における電子メールの送付処理を示すフローチャートである。これら図1～図3を参照して本発明の一実施例によるメール送付装置1の動作について説明する。

40

【0018】

まず、操作者がアドレス帳11にアドレスを登録する操作を行う場合(図2ステップS1)、メール送付装置1にはメールアドレスaが入力され(図2ステップS2)、送付確認フラグbの有無が入力され(図2ステップS3)、その他の属性cが入力されると(図2ステップS4)、1つのアドレスのデータ入力完了する(図2ステップS4)。メール送付装置1はこれら入力されたデータをアドレス帳11に保持する。

50

【0019】

メール送付装置1は他にアドレス登録がある場合(図2ステップS5)、上記のステップS1~S4の処理を繰り返し行う。尚、上記のステップS2~S4の入力処理は固定的な順番ではなく、上記とは異なる順序で入力されても良い。

【0020】

メール送付装置1は他のアドレス登録がない場合(図2ステップS5)、アドレス帳11への登録処理を終了する。上記のフローの中で、ステップS3において、送付先確認フラグの有無を入力することが、本実施例の特徴である。

【0021】

次に、操作者が電子メールを作成する処理を開始すると(図3ステップS11)、メール送付装置1には、本文が入力され(図3ステップS12)、上記の登録処理で作成済みのアドレス帳11からその電子メールにて送信する送付先が指定される(図3ステップS13)。尚、ステップS12の処理及びステップS13の処理はその順序が逆でも良い。

10

【0022】

メール送付装置1は電子メールの作成が完了すると、その電子メールの送信処理を行う(図3ステップS14)。その際、メール送付装置1は、ステップS13で選択された送付先に、「送付確認フラグ」が含まれている送付先があるかどうかをチェックし(図3ステップS15)、1件も該当するアドレスがなければそのまま電子メールの送信処理を実行する(図3ステップS19)。

【0023】

メール送付装置1は上記のチェックにおいて、1件以上の該当するアドレスがある場合、その「送付確認フラグ」が含まれている送付先のリストを操作者に表示し(図3ステップS16)、このまま送信してよいかを確認する操作を促す、つまりこのまま送信してよいかのメッセージを操作画面に表示する。

20

【0024】

メール送付装置1はこの操作画面にて、操作者が送付すべきでない送付先が1件以上あると指定した場合、1件ずつ削除する処理を行う(図3ステップS16~S18)。メール送付装置1は削除すべき送付先がなくなると(図3ステップS17)、この電子メールの送信処理を実行する(図3ステップS19)。

【0025】

上記のフローの中で、ステップS16~S18の処理が本実施例の特徴である。このステップS16~S18の処理は、上記の例において、ステップS14の送信操作の実行後に行っているが、ステップS13のアドレス帳11から送付先を選択した時点で行うことも可能である。

30

【0026】

このように、本実施例では、予め登録していた「送付確認フラグ」が付いているアドレスを送付先に選択した場合、電子メールの送信直前に、操作者に対して、この送付先に送信してよいかを確認するための操作画面を表示し、削除が必要であれば削除する機能を設けることによって、送付先指定の誤操作で本来送付すべきでない送付先にメールを送信してしまう可能性を低減することができる。

40

【0027】

図4は本発明の他の実施例による情報処理装置の構成を示すブロック図である。図4において、情報処理装置2はCPU(中央処理装置)21と、CPU21が実行する制御プログラム22aを格納するメインメモリ22と、CPU21にて実行可能なアプリケーションプログラム等を記憶する記憶装置23と、表示部24と、電子メールの送受信等の通信を制御する通信制御部25とを含んで構成されている。上記のCPU21、メインメモリ22、記憶装置23、表示部24、通信制御部25は内部バス210にそれぞれ接続されている。

【0028】

記憶装置23は上述したメール送付装置1の各機能をプログラムで実現したメールソフ

50

トウェア 2 3 1 と、このメールソフトウェア 2 3 1 が使用するアドレス帳 2 3 2 とを備えている。尚、アドレス帳 2 3 1 は上記の本発明の一実施例におけるアドレス帳 1 1 と同じものである。

【 0 0 2 9 】

本実施例では、CPU 2 1 が記憶装置 2 3 のメールソフトウェア 2 3 1 を読出して実行することで、上述した本発明の一実施例と同様の処理を実現することができ、同様の効果を得ることができる。尚、情報処理装置 2 としては、パーソナルコンピュータ、携帯電話機、PDA (Personal Digital Assistant) 等の電子メールを作成、送信することができる情報機器全般が考えられる。

【 図面の簡単な説明 】

10

【 0 0 3 0 】

【 図 1 】 本発明の一実施例によるメール送付装置の構成を示すブロック図である。

【 図 2 】 図 1 のメール送付装置におけるアドレス帳の登録処理を示すフローチャートである。

【 図 3 】 図 1 のメール送付装置における電子メールの送付処理を示すフローチャートである。

【 図 4 】 本発明の他の実施例による情報処理装置の構成を示すブロック図である。

【 符号の説明 】

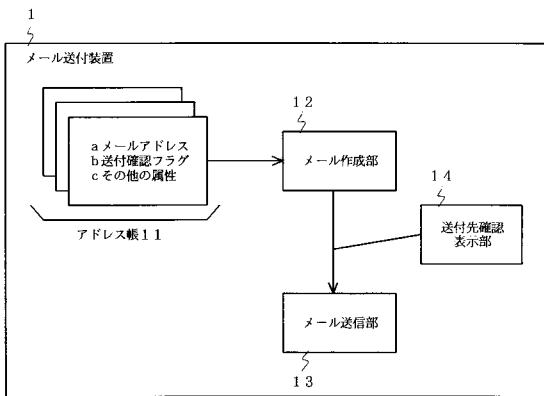
【 0 0 3 1 】

- 1 メール送付装置
- 2 情報処理装置
- 1 1 , 2 3 2 アドレス帳
- 1 2 メール作成部
- 1 3 送信処理部
- 1 4 送付先確認表示部
- 2 1 CPU
- 2 2 メインメモリ
- 2 2 a 制御プログラム
- 2 3 記憶装置
- 2 4 表示部
- 2 5 通信制御部
- 2 1 0 内部バス
- 2 3 1 メールソフトウェア

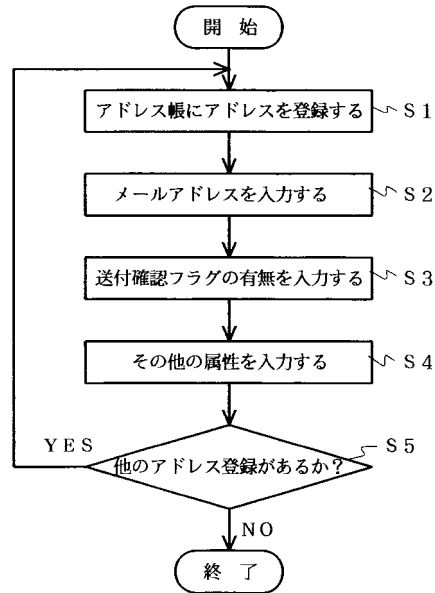
20

30

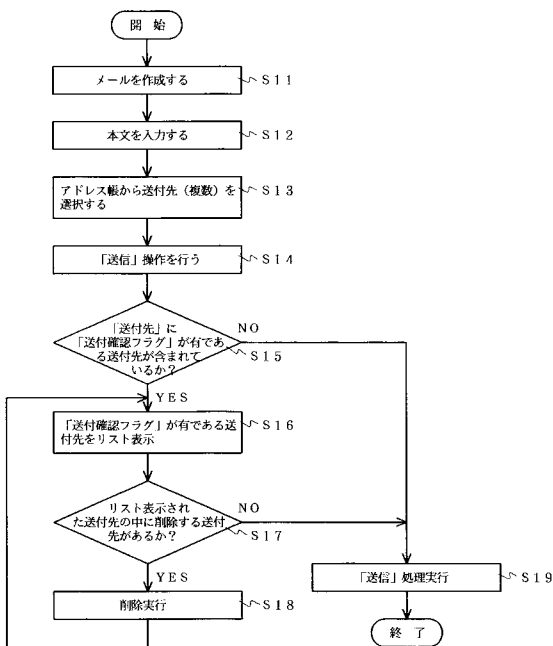
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

